

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



### 合田 直弘

日本調教馬の遠征が予定をされていて、日本でも馬券発売がありそうと言わされているのが、4月6日に豪州のランドウイック競馬場で行われるG1ドンカスター（芝1600m）だ。そこで、おそらくは1番人気が予想されるジョータムサン（牡3、父リダウツチヨイス）が、今回のこのコラムの主役だ。

管理するのはメトロポリタンのリーディングトレーナーであるクリス・ウォーラーだから、ワインクス（牝7、父ストリートクライ）を送り込む13日のG1ケイーンワリザベスS（芝2000m）とともに、ザ・チャンピオンシップスのメイン競走ダブル制覇に王手をかけていくことになる。

ジョータムサンの血統背景を見ると、優秀な血脉が大陸間をダイナミックに行き来している昨今の生産事情を改めて認識させられる。

同馬の父リダウツチヨイスは、豪州産で祖国でチャンピオンホースとなり、チャンピオンサイヤーとなつた馬だが、その父はデインヒルだ。米国産のデインヒルは、英國を拠点に現役生活を送つてG1勝ち馬となつた後、シャトルスタリオンとなつて活躍。北半球でも良駒をたくさん出したが、凄まじかつたのが豪州における産駒の活躍で、豪州では歴代最高の種牡馬の1頭と評価されている。

同馬の父リダウツチヨイスは、豪州産で祖国でチャンピオンホースとなり、チャンピオンサイヤーとなつた馬だが、その父はデインヒルだ。米国産のデインヒルは、17年のイングリス・イースター1歳市場に上場され、調教師クリス・ウォーラーを含むシンジケートに70万ドルで購買された同馬は、18年4月にデビューすると、2歳時は3戦し、ドゥームベンのG1トヨタキンスプレート（芝1600m）を含む3

その代表産駒であるリダウツチヨイスが、豪州で種牡馬として成功した後、13年、14年と仏国にシャトルされ、2月21日にメイダンのG3ドバイミレニアムS（芝2000m）を制したスポーティファイのよう、欧州産リダウツチヨイス産駒の活躍馬も出ている。

一方、ジョータムサンの母アズミーナ（その父ガリレオ）は愛国産馬だ。アガ・カーン殿下の自家生産馬で、母の半兄に、G1セントジェームズパレスS（芝17F213y）、G1愛チャンピオンS（芝10F）、G1プリンスオヴウェールズS（芝10F56y）、G1キングジョージ6世&クイーンズリザベスS（芝12F55y）と、3つの異なる距離区分で4つのG1を制したアザムールがいる牝系の出身だ。ジョン・オックス廐舎に入つたものの、未出走に終わつた後、豪州の大手アロウフィールドスタッフが購買して豪州に渡り、15年9月2日に産んだ2番仔がジョータムサンだ。ちなみに、本馬が持つガリレオとデインヒルのクロスは、ニックスと言われている。

15年5月から継続している連勝記録

を31まで伸ばしているワインクスが、4月13日のG1ケイーンワリザベスSで現役を退くことが決まつて、ワインクス引退後の豪州競馬を背負つて立つことが期待されているのがジョータムサンなのである。次走は、3月23日に行われるG1ローブヒルギニーズ（芝2000m）の予定だ。

ドンカスター・マイルにはこの他、前年に続く連覇を狙うハッピーカラッパー（騙8、父テオフィロ）や、2月23日のG1フューチュリティS（芝1400m）で3度目のG1制覇を果たしたアリーゼー（牝4、父シーオポイ）らが出走てくる見込みだ。

連勝をマークした。

3歳緒戦となつたローズヒルのG2スマ

ンフオックスS（芝1500m）で3着に敗れ連勝は止まつたが、次走となつたローズヒルのG1ゴールデンローズS（芝1400m）でG1初制覇。続いて出走したG1コ

ーフィールドギニーズ（芝1600m）も4.1/2馬身差で快勝すると、夏休みを挟んで出走した、2月23日にローズヒルで行われたG2ホバートヴィルS（芝1400m）も白星で通過。更に3月9日のG1ランドウイックギニーズ（芝1600m）も制し、ここまで通算成績を8戦7勝としている。

15年5月から継続している連勝記録を31まで伸ばしているワインクスが、4月13日のG1ケイーンワリザベスSで現役を退くことが決まつて、ワインクス引退後の豪州競馬を背負つて立つことが期待されているのがジョータムサンなのである。次走は、3月23日に行われるG1ローブヒルギニーズ（芝2000m）の予定だ。

ドンカスター・マイルにはこの他、前年に続く連覇を狙うハッピーカラッパー（騙8、父テオフィロ）や、2月23日のG1フューチュリティS（芝1400m）で3度目のG1制覇を果たしたアリーゼー（牝4、父シーオポイ）らが出走てくる見込みだ。